

第1回袋川緑地サクラ管理計画策定協議会議録事概要

開催日時	令和5年7月19日（水）午前9時30分～午前11時
開催場所	鳥取市役所 多目的室1
出席者	委員：栗嶋委員、清末委員、谷尾委員、永松委員、甲田委員、川端委員、中尾委員、岡委員 事務局：徳田課長、石原主査、津茂谷
資料	パワーポイント「第1回サクラ管理計画策定協議会」

議 事 概 要

1 各委員の意見（席次順）

（1）栗嶋委員

- 土手を市道側に約1.5メートル広げる。若桜橋から智頭橋の土手が狭い。土手は土にするのが良い。1.5メートル市道側に広げて土手を広げる。
- 土手の歩道は土として舗装しない。土手を土にしてコンクリートにしない。
- サクラを順次、植え替える。
- ライトアップをしたい。
 - （事務局）若桜橋から智頭橋のところの一部、フットライトを設置している。ウォーキングされる方が最近多く、フットライトももっとつけて欲しいという要望もある。河川管理者のものでもあるので、色々な条件をクリアしながら実施しないと難しい面もある。
 - （清末委員）ライトは誘蛾灯にもなる。

（2）清末委員

- 弘前公園、栗林公園などでは、今ある桜を100年以上伸ばすというふうな計画が行われている。継ぎ芽をしたり、いろんな方法を行っている。鳥取では倉吉打吹公園がこれを取り入れている。そのような方法でサクラを残すということもあるし、桜を全部植え替える場合、ソメイヨシノは忌地をするので土の入れ替えをしないといけないし、大変な工事になると思う。法面とか、道路の問題とか、そういったことまで総合的に考えて実施する必要がある。

（3）谷尾委員

- 若桜橋から智頭橋までが最も有効な土の量がないので当然ながら衰弱していく。智頭橋から湯所橋までは比較的土手の幅員も取られているので、急に桜が衰弱して枯損することはないと思う。
- 市道側に枝が張り出してきている。
- 毛虫、葉とかスポーツ施設協会に苦情はあると思うが、その辺が桜は綺麗だが悩ましい存在だと思う。
- 一番弱っているところをまずどうするか。毎年ボランティアに行くが、毎年毎年大枝が枯れていくのがわかる。若桜橋の根が一番近いところが一番弱っていて、下流に向かってちょっとずつ元気になるような感じ。圧倒的に土がないところが弱っている。
- 枯れ枝が落ちてきて、花見をする市民県民の方の頭に当たってけがをしたらいけないという保全と安全管理的な意味合いで3月にボランティアを実施している。
- 植替える方向なのか、保全なのか、弘前公園の桜はそういう取り組みは確かに実行されて、手をかけているのは有名であり、その辺も考え方の一つ。
- 河川の境界はどこですか？
 - （事務局）非常に難しい話で、川はいわゆる堤防ルールがある。河川断面を侵すと河川管理者が認めない。そういった部分は事務局に任せていただきたい。

（4）永松委員

- 若桜橋から花見橋までの間の咲き具合が一番良くない。出会橋から湯所橋、一番下流側が一番よく咲いている。若桜橋からは花見橋が、最もその衰退度として状態が悪い。
- 若桜橋から花見橋、カワウソダケという芯材腐朽を起こすキノコが割とたくさん見られる。
- 根本にどれぐらい広さがあるか、弥生橋から若桜橋の間が問題である。

○キノコがついているのが若桜橋のあたりよりも、鹿野橋と市場橋。ここに非常に多くキノコがついており、ここはそのせいなのか少し花つきが悪い。少し注目していかないといけない。

○舗装の浮きがある。若桜橋のところもだが、実は下流側もそんなによくないところがある。

○一本一本写真を撮って、その状態を簡易に残す。

○状態は橋間ごとに色々であり、ソメイヨシノは年を取ってきているので、全体にその樹形が乱れているというものが多く、そのこともあり管理が難しくなっていると思う。

○植え替えられた個体も所々あるが、計画的に植えられているという感じではなく、すごく狭いところに植えられたりしていることもある。年間の管理計画を立て、原則などを決めて、こういうふうに植えていきましょうというようなことを決めてればいいかと思っている。

○周辺との関係について、今は桜のことばかり見ているので、周辺環境、地元の皆様の思い、それからご迷惑もあると思いますのでバランスを取っていかないといけないと桜が大事だからといって、そこだけ注目すると上手くいかないかと思っている。

○根が巻き込んでいて、幹を痛めているのではないかという樹が何本かあり、根元がすごく狭く、舗装がすぐそばにある。

○業者に図面を作成してもらい、それからその管理計画の、いろんな必要な資料を揃え、手伝いをしてもらえる業者さんを入れてもらえることを事務局から聞いている。委員方からどのような調査、資料が必要かというようなことも伺い、計画を進めていければと思う。

○サクラの迷惑の話、安全に関する話などの課題があれば教えてほしい。

→ (事務局)

●電線に桜の枝がかかり危ない、台風とか風が吹くと、倒木して家屋に影響が出そう。大きな配送のトラックにその枝があたる。こういったことが、よく道路管理者、我々都市環境課の方にもそういう苦情とか意見がある。

●近年多いのはバリアフリーのことが多くあり、桜土手の足元のところに擬石の平板が根上がりを起こして、段差でガタついたりというところがある。

●最近ウォーキングされる方が多く、足元が暗い電気をつけて欲しい。照明が欲しい。段差があつてつまづくのでバリアフリーのように綺麗にした状態に整備をして欲しいという意見がある。

○河川管理はどのような制約があるのか。

→ (事務局)

●仮に土手の形を変えると、県河川課に変更の届出等が必要になる。管理者の許可もいただきながら進める必要があるので、事務局としては慎重に進めていきたい。

○ボランティア活動で例えば草刈など、日常の管理はたくさんの人が関わっているのか。

→ (川端委員)

●橋から橋までの間で、それぞれ公園愛護会というボランティア団体が結成されている。愛護会が多い時には週1ぐらいで除草、ごみ拾いを行い、二・三月に一度、低木剪定とかを一緒にやっている。他は、全く愛護会に属してない方が毎日ゴミ拾いをボランティアでしていただいている。

(5) 甲田委員

○パワーポイントの資料の桜土手の歴史の昔の写真について、この写真見ると歩道が広くて、すごく興味がある。

○この桜の計画を立てる中で、明治の時の、学童の方々が、桜を植えた醇風小学校の子供たちが植えたときの計画がどうだったのかというのが参考になるのかなというふうに思う。

○街づくりの観点から話をしているが、花見に行った時にやはり歩道が狭く、立ち止まってゆっくり見て眺めるということをしながら、人が来たらどかないといけないこともあった。そういう観点からも、歩道を広げるといのは、良いのではないかな。

○瀬川先生が、寄付してくださった桜を植えた時は、県とか市が関わって植えたとか、瀬川先生が個人的に植えられたのかも気になった。

→ (清末委員)

●瀬川先生が植えたものでなく、苗をこちらで植えている。

○今後地域住民の方にアンケートを取ることもあるみたいだが、どれぐらい花見の時期に人が歩いて利用されてるということ数を数えて、流動的に調査出来ればよい。桜トンネル、昔の写真の感じにもし桜があれば、防災とかの関係はどうなのかなとか、そういった点も考えながら計画を立てていくのも一つあるのかなというふうに感じている。

(6) 川端委員

○日頃から袋川緑地を観察している。特に枝枯れキノコについてですが、キノコは詳しくないものですから、知識のある方に意見を伺いながら管理しているが、発見が遅れてしまい、手がつけられない状態になっている箇所もある。

○根上がりによる園路の隆起、特につまずきに繋がるような隆起があちこちある。これらの改善を今後の計画に入れてほしい。

○公園スポーツ協会で剪定を実施していると記載されているが、剪定というのは自然樹形を守るような綺麗な剪定ではなく、街路樹と同じように、車の通行になるような4.5メートル以下の枝を切ったり、歩行者が傘をさして歩いても当たらない高さ2.5メートル以下で、そのような枝を切る剪定しか実際できていない。予算の都合上、この橋からこの橋を4年サイクルで実施しており、枝が結構残っているような箇所が多々あると思う。

○電線等に接触しそうな枝は協会では手が出せない。中国電力にお願いして切ってもらおう。特に景観が大事なことは重々承知しているが、公園スポーツ協会として、安全面を重視した管理をせざるをえない。

○今年の春、袋川サクラを鳥取市と協議し、一部、超音波等で調査した。やはり中に空洞が結構できているということなので、特に大きな台風が来た際には、倒れる樹が何本かあると考えている。できれば他も調査等をしていただいて、今後の計画に生かしていただきたい。

(7) 中尾委員

○谷尾委員から今後、樹種についての合意形成が必要となるご意見がありましたが、桜について市民の力で植えられて大火により焼失し、また市民の力で再生を図ったという歴史を考えると、市民の原風景の中にはやはり桜というものがしっかりとあり、当然、桜も第1候補になると考えている。

○桜を維持し再生を図っていく場合に、脅威となる「クビアカツヤカミキリ」がある。これが2018年1月に外来生物法による特定外来生物に指定をされている。

○2012年に愛知県で初めて「クビアカツヤカミキリ」による加害があったが、この際は防除が被害の拡大に追いつかず、全木を伐採している。今は予防的な措置、それから卵を産んだ後の防除という対策が構築されており、それをどのようにやっていくのか、日頃の見守り体制というもの、この検討会の中でしっかり検討していくべき。

○この検討会で、どの範囲を検討するのかということをやはり見合わせをしたほうがいい。桜土手の桜を検討するのか、それとも、袋川と一体となった原風景を検討するのかというところの観点が必要。

○新しく桜土手の再生を図ってキックオフをするにあたり、市民の皆さんの共同参加という視点がすごく大事だと思う。その点で、市民が参画と協働しやすいような体制というの併せて検討するべき。

(8) 岡委員

○緑地、公園ということで、年次的に整備を行っている。その時代ごとで整備の仕方が変わっており、その頃はまだ桜もこの様に古くなってない状況で、園路、歩道であるとか、それらをメインにして整備を行って生育に影響あるようなことになっている。安心安全という面、中心市街地の活性化という面もあり、両方成立するような計画にしていくべき。

○川までは整備できないと思うので、鳥取市としては環境調和をみながらやっていきたい。

2 袋川緑地サクラ管理計画策定協議会の年間スケジュール

令和5年度

7月	第1回協議会	経過説明、委員からの課題意見徴収
10月	第2回協議会	委員からの意見集約、各サクラ土手の区間ごとで状況が異なっていることの現状説明、再度委員からの意見徴収
1月	第3回協議会	問題・課題点の整理、市民アンケート案の提示

令和6年度

4月	第4回協議会	サクラ管理計画素案協議
7月	第5回協議会	サクラ管理計画素案修正後協議、パブリックコメント開始の説明
1月	第6回協議会	パブリックコメント後、意見集約及び反映し、サクラ管理計画最終案 提示
3月		フィードバックを踏まえた事業実施